

季刊

医大

おらんくの大学病院

[高知大学医学部附属病院]

創刊号

[Vol.1]

2019年 春 3月20日

発行



高知大学発「光線医療」の進むべきところ

いま、PDDからPDTの時代へ!

「創刊によせて」

病院長 執印 太郎

編集委員長 山上 卓士

●おらんくの食事

栄養管理部から「春」のおすすめ料理

●医大のスタッフ

地域医療連携室

春のイベント案内

「創刊によせて」

〔病院長〕

執印 太郎

しゅういん たろう

高知大学医学部附属病院の広報誌「おらんくの大学病院ニュース」を新しく皆様にお送りします。

本院は、大学設置基準で規定されている医学部の教育と先進的医療を研究という形でやっている病院です。

同時に高度医療の提供、医療技術の開発・評価、そして若手医師の研修を行うという特定機能病院でもあります。

本院はこの二つにおいて県内で唯一の施設です。

若い医療者の初期教育を行いながらも優れた臨床研究をベースに高度で先進的な医療を行い、高知県の地域医療に大きく貢献することを使命としています。

これからも高知県の地域社会の動向やその要望を注視しながら、先進医療を軸とした診療体制によって安心・安全な、県民の皆様にもっとも信頼される「おらんくの大学病院」としてこれからも努力を惜しまず活動が続けてまいります。

〔編集委員長〕

山上 卓士

やまがみ たくじ

本院から皆様にお伝えすべき内容はたくさんあります。

現在、高知大学医学部附属病院の再開発は、第1ステージが終了し、平成27年春から第2病棟の運用を開始しました。第2病棟には手術室、ICU、周産母子センターなどが備えられています。平成29年度には、最先端の手術室であるハイブリッド手術室が設置されました。

今後の再開発第2ステージ終了後には、海岸線から離れているという地の利を活かし、高知の医療の「最後の砦」としての役割を力強く遂行できる病院が完成する予定です。

もちろん、建物や設備などハード面の充実ではありません。各診療科や各部署に勤務するスタッフは、診療、研究、教育に日夜尽力し、ソフト面の向上に励んでおります。

大きく変わりつつある高知大学医学部附属病院の最新情報や成果等、皆様のお役に立てる内容を、この病院広報誌を通じて幅広くお伝えし、皆様の健康増進に繋げてまいります。

高知大学発「光線医療」の進むべきところ

いま、PDDからPDTの時代へ！

2017年4月、高知大学医学部は附属病院内に今後のがん診断やがん治療の大きな進歩につながる「光線医療センター」を開設しました。2年が経過した今、センター長の花崎和弘教授に光線医療技術の普及、向上の現状と、これからの展望を聞きました。

光線医療センター長 Profile

花崎 和弘 (はなざき かずひろ)

■役職：高知大学医学部外科学講座外科1 教授 ■専門分野：肝臓・胆道・膵臓がんに対する外科治療

【学 歴】昭和59年／新潟大学医学部医学科卒業
平成4年／信州大学医学部 学位取得(医学博士)平成18年4月／高知大学医学部外科学講座外科1(教授)
平成29年4月～現在まで／高知大学医学部附属病院 光線医療センター長(兼務)

光線医療センターの体制

花崎 和弘 センター長(外科一)、井上 啓史 副センター長(泌尿器科)

関連診療科：外科(一)、外科(二)、形成外科、内科(消化器)、皮膚科、眼科、脳神経外科、泌尿器科、乳腺センター、

研 究 員：中山 沢

顧 問：佐藤 隆幸、栗津 邦男、田中 徹、小倉 俊一郎

光線医療センターの歩み

◆高知大学医学部附属病院に2017年4月開設

主な活動については以下のURLをご覧ください。

<http://www.kochi-ms.ac.jp/~hspt/guidance/onespost/photodynamic.html>

—あらゆるがんの救世主になると思われる特殊光を使った「光線医療」の発表以来、現在までの光線医療センターの活動状況はいかがですか。

さまざまな国際学会等で本学の光線医療センターと我々の研究内容を発表する機会があり、海外とのつながりは濃密になりました。中でも光線医療センターを開設した年の10月にバーレーン王国のバーレーン医科大学(RCSI Bahrain)で、第2回の光線医療に関するシンポジウムが開催されたんですが、その時先方から、高知大学とバーレーン医科大学がコラボして今後学際的、あるいは臨床的な研究交流をしながら両国の関係を深めて行きたいという提案をいただき、非常に嬉しく快諾しました。今後は、光線医療のみならず、他の医学分野の発展につながる関係を築けたら頼もしいですね。

—関係者を招いてのセミナーも何度か行っておられるそうですね。

昨年3月に、本学の脳外科や泌尿器科の先生方の講演で「第1回高知光線医療セミナー」を開催しました。高知大学で生まれたハイパーアイメディカルシステムという医療機器を開発した佐藤教授の基調講演ということもあり、多くの方々の参加で大盛況となりました。

続く本学での第2回は、光線医療センター特任研究員の中山 沢先生が「光線医療のがん治療へのさらなる一歩」というテーマで講演されました。現在、5-アミノレブリン酸を用いた光学系の視点から最先端の研究を行っていて、つまり中山先生の基礎研究と我々の臨床研究を並行して進めているのです。

—光線医療がスタートした際、がんの「取り過ぎ」や「取り残し」がないことを仰られていましたが、まさにそれが広く認められ、この2年間で想像していた以上に保険適用の方も進んでいるそうですね。

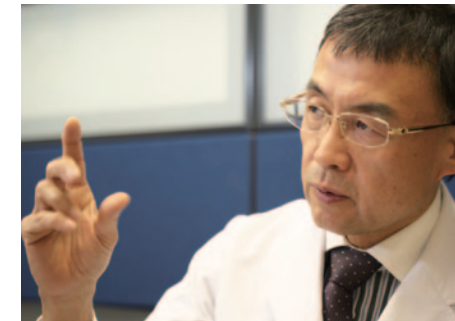
嬉しいかぎりです。これまでは、良性のものや化学療法で治す方が良いと思われる「取らなくてもよい」「取ってはいけなかった」もので切除したりということもありましたが、現在ではステージが明確になり、がんでないもの、或いは進行していて手術で治る見込みのないものは取らないで、制がん剤などを使った化学療法で長生きしてもらうなどの判断が正確にできるようになってきたんです。また、2017年秋には再発率の高かった膀胱がんに対し、保険適用が決まりましたし、今また胃がんも保険適用を目指しています。

—なるほど。そうなってくると、これまでとはがんに対する見方や認識が随分変わってきますね。

その通りです。ご存知のようにオプジーボなどの近年の制がん剤は効き目が凄いい分期待も大きく、診断と治療が患者さんの予後を大きく左右するため、そこに高知大学発信の光線医療の驚異的な成果が貢献できるのです。

高知県のように高齢者の数もがん患者数も非常に多い地域は、特に光線医療が力を発揮してくれるでしょうね。また、ど

うやればがんを死滅させられるかのメカニズムが分かっていると思いますので、現在は特殊光線を使用してがんを殺していく治療に変化しつつあります。光線医療の世界はこの短期間ですでにPDD(Photo Dynamic Diagnosis)からPDT(Photo Dynamic Therapy)、つまり診断から治療の時代へと移り、光ったがんだけ集中的に死滅させられる時代が到来しつつあります。さらに、制がん剤と光線医療を組み合わせることで、抗がん剤の効き目がアップし、がん死滅の確率が高くなったというデータも出ています。



—聞いているだけで胸が高鳴ってきます(笑)。まだまだ先の話と思っていた治療法が、この高知で可能になっているなんて夢のようです。こうなると、これからの光線医療の発展、進歩がますます楽しみになってきましたね。

そうですね。安全性は保証されていますし、有効性も判ってきている。しかも正確な診断、治療ができる。加えて副作用や

有害事象も殆どないので、患者さん側にも医療側にも一切無駄がなく不安も少なく好いことばかりなのです。ですから患者さんに説明する時も、これまでのように推測や経験などから判断せず科学的根拠に基づいて説明しますので、誰が見ても客観的な判断や評価ができるのです。

—より長生きできる治療法を患者さん自身が選択できる時代になったとは…。高知大学で生まれた技術が日本ばかりか世界までを動かしつつあると言っても過言ではないですね。

ありがとうございます！最近では、多くの研究者から高知大学は光線医療のメッカと称えられていて、今や光線医療技術を用いたがん治療の中心地と言っていいかもしれません。

現在私たちが目指しているのは、ゆくゆくは検診の中に光線医療を組み入れ早期発見、早期治療の技術を導入することで、東京から、また外国からの患者さんも高知大学に来て診断や治療ができるようにすること。光線医療によって、これまでは助けることができなかった命を救える時代がすぐそこまできているのです。

—期待はどんどん膨らむばかりですね。あらゆるがんの保険適用をはじめ、高知大学からこれからも素晴らしい研究成果が発信されることを願ってやみません。今日は本当にありがとうございました。

(取材／2019年2月1日)



2018年10月14日(日)ちより街テラスにおいて、光線医療センター市民公開講座「2018「輝かしい健康のために！～光で診て・光で治す～」を開催
(左から)花崎センター長、福原先生、中島先生、テレビ高知 木岡アナウンサー、並川先生、井上副センター長



プロジェクターを使って解説中の花崎センター長

2017年10月9日、バーレーン王国の首都マナーナのアイランド王立外科医学院バーレーン医科大学(RCSI Bahrain)にて、第2回 RCSI-SBI Symposiumが開催された





春キャベツのミルフィーユ

電子レンジを使うことで、時短料理に！
シンプルな味付けなので、ソースなどでアレンジ自在です。



【材 料】(4人分)

春キャベツ……………4枚
★合い挽きミンチ……………400g
★タマネギ……………中1/2個
★塩……………小さじ1/6杯(1g)
★こしょう・ナツメグ……………少々
★卵……………1ヶ
★パン粉……………1/2カップ
★牛乳……………1/2カップ
小麦粉……………適量

[付け合わせ] さやいんげん……………8本
フルーツマト……………4ヶ

栄養量 (1人分)	エネルギー	250kcal
	たんぱく質	25.9g
	脂 質	11.3g
	炭 水 化 物	10.1g
	ビ タ ミ ン C	30.5mg
	食 物 繊 維	11.1g
	食塩相当量	0.5g

【作り方】

- ① (下準備) 春キャベツの芯はそいで刻んでおき、★のタマネギも細かく刻んでおきます。また付け合わせのさやいんげんは筋を取り湯がいて、バター(分量外)でソテーし、フルーツトマトはガクの部分を取り洗っておきます。
- ② ①のキャベツの芯と★を大きめのボールでよく混ぜ、肉だねを作ります。
- ③ 耐熱の皿(またはボール)にキャベツを敷いて、小麦粉をふりかけ、②の肉だね1/3を広げ、再度小麦粉をふりかけます。
※この作業を3回繰り返します。
- ④ ③の皿に上からふんわりとラップをかけ、500Wの電子レンジで15分加熱します。
- ⑤ 少し冷ましてから、4等分に切り分け、さやいんげん、フルーツトマトを添えます。
- ⑥ 食べるときにトマトケチャップやポン酢などをかけて完成です。(何もつけなくても食べられます。)

！私達が担当しました！



一言
MEMO



実はキャベツはビタミンCの多い野菜です。日頃食べる機会が多い野菜であるため、手軽なビタミンの供給源となります。ビタミンCは水溶性なので、水にさらす際は手短に、煮物料理の場合は汁まで飲めるスープ料理などにするとよいです。

紹介しているレシピは蒸し料理で電子レンジを使って加熱しますので、ビタミンCの流出が少ないものとなっています。

診療支援施設

Clinical Support Facilities

地域医療連携室

Community Healthcare Network Office

室長
池内 昌彦
いけうち まさひこ



地域医療連携室では、患者さんやご家族からのご相談・退院調整や在宅療養に向けての制度・在宅サービス利用調整などの他に、医療機関等からの初診紹介患者さんの事前予約業務（FAX予約）を行っています。これらの業務を通じて患者さんやご家族が安心して治療・ケアを受けられるよう地域の病院や診療所、施設や市町村の窓口と連携しながら支援しています。

以前より紹介元医療機関等から「予約日時の連絡に予約票を送ってほしい」との要望がありましたので、病院システム更新に併せて平成31年1月よりFAX予約をシステム化しました。つきましては、運用も次のように変更されていますので、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

- FAX回線（088-880-2774）はFAX予約専用回線となります。
*予約申込以外のFAX利用は別回線（088-880-2449）をご利用願います。
- 決定した予約日時はFAXにて予約票として紹介元医療機関に連絡します。
*紹介元医療機関への連絡は迅速に行います。



地域医療連携室の業務は

- 医療福祉相談 ● 各種申請手続支援（介護保険、高額療養費）
- 他施設との患者さんの情報交換
- 退院支援（転院・転所調整、在宅サービス、療養相談など）
- 看護・介護 ● 広報活動
- 予約センター
初診紹介患者さん予約受付、予約変更・確認、特殊外来（セカンドオピニオン、遺伝相談等）の予約受付、医療機器（MRI・RI等）の他施設との共同利用の受付、開放病床利用申込の受付

地域医療連携室へのご連絡は

- 相談支援部門
医療福祉相談・各種申請手続支援等
TEL.088-880-2701
- 地域連携部門
FAX紹介・セカンドオピニオン申込・開放病床利用等
TEL.088-880-2773

春のイベント案内

● 4月～6月 ●

RKCラジオ「気になる健康ファミリドクター」

【放送】毎週月曜日 午前10:35くらい～（10分間） 【再放送】毎週土曜日 午後5:50～（10分間）

※放送内容は後日附属病院ホームページに掲載されます。

- 4月1日(月) 子宮頸がん検診(産科婦人科/牛若 昂志)
- 4月8日(月) 認知症について(精神科/数井 裕光)
- 4月15日(月) 災害リハビリテーション(リハビリテーション部/永野 靖典)
- 4月22日(月) お薬の管理方法について(薬剤部/野村 政孝)
- 4月29日(月) 肺炎球菌ワクチン(総合診療部/小松 直樹)

創刊号
[Vol.1]

2019年春 3月20日
発行

季刊 **おらんの大学病院**
[高知大学医学部附属病院]

ご意見、ご感想は
右記まで
お寄せください。

高知大学医学部附属病院 広報係
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
Tel.088-880-2723
<http://www.kochi-ms.ac.jp>